

かほく市立高松中学校 学校便り

《校訓》「責任を果たせ 自主・協同・奉仕」

さわやか



特別号 | 令和6年9月13日発行

校長 塚田 秀和

□ 学力調査結果等のお知らせ

3年生を対象に4月17日に石川県基礎学力調査（社会・理科・英語）、18日に全国学力・学習状況調査（国語・数学）が実施されました。また、1・2年生を対象に、かほく市独自に学力調査を4月10日に行いました。

調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導等に役立てることです。今回、本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者・地域の皆様にお知らせします。

なお、各学力調査により測定できるのは学力の特定の部分であり、また学校における教育活動の一側面であることをご理解くださいますようお願いいたします。

○学力調査の結果（教科に関する調査）

		国語	社会	数学	理科	英語
1年	国との比較	□	□	◎	◎	□
2年	国との比較	◎	◎	◎	◎	◎
3年	国との比較	◎	/	◎	/	/
	県との比較	□	△	□	□	△

※ 表中の記号（◎□△）は、本校の平均正答率を、国や県の平均正答率と比較したものです。

◎：3ポイント以上高い △：3ポイント以上低い □：同程度である

※ 3年生は、全国学力・学習状況調査（国語・数学）、石川県基礎学力調査（社会・理科・英語）

※ 1・2年生は、かほく市実施の学力調査

○学力調査の結果からの考察

学力調査の結果については、3年生の社会、理科において県平均を下回っているものの、石川県が全国学力調査で上位に位置することより概ね良好な結果と考えています。各教科で分析を行った結果、調査を実施したすべての教科から「複数の資料（条件）を正確に読み取り、処理すること」「教科で用いる言葉の意味を正確に理解すること」が学習の定着が不十分な点（課題）として挙げられました。

「複数の資料（条件）を正確に読み取り、処理すること」については、授業の中で情報を読み取る場面を設定し、良い点、不足している点を共有したり、さらに良い表現にしたりする活動を組み込んでいきます。また、「教科で用いる言葉の意味を正確に理解すること」については、家庭学習の時間確保も目的に、木曜日（部活動休養日の翌日）の朝読書・学習の時間に、5教科の小テストを実施しています。小テストの内容は各教科で理解してほしい基本的な内容に留めています。1学期は実施したテストすべて満点の生徒、平均点が95点以上の生徒を終業式で表彰しました。この表彰は毎回の地道な努力の大切さを認めることを大切にしています。



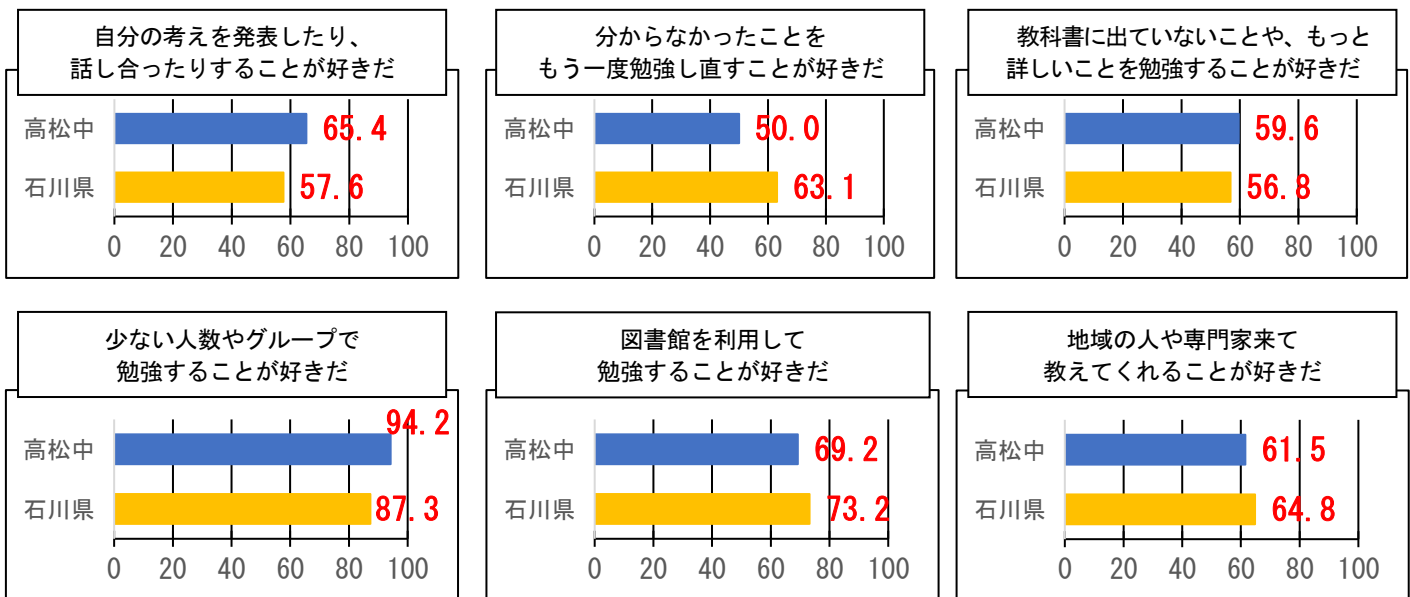
○本校における学力向上の取組

[令和の日本型学校教育]

本校は、今年度より3年間に渡って石川県より「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究推進校」に指定され、全教職員で実践を進めています。

本校では、「令和の日本型学校教育」についての研究を生きていく上での課題解決に迫る学び方を学ぶ研究と捉え、今年度は授業において子供が自ら選択する場面（子供の選択肢として目標、時間、方法、学習形態、道具、問題の6つ）のある授業展開に重きを置いて研究します。さらに、それぞれの選択肢の中に効果的にICTを活用することも取り組みます。

以下のグラフは、3年生を対象に実施された「学び方」に関する意識調査の結果です。自分の考えを表現したり、少人数で学習したりすることを好む本校生徒の特性が見られます。その上に、研究の視点である「学び方」を子供自身が選択する活動を通して「生徒が自分で自分の背中を押し学び続ける姿」を目指していきます。



[指導者を要請した授業研究の実施]

前段に記載した「令和の日本型学校教育」の実現に向けて、大学教授等を指導者として要請した授業研究を実施しています。

4月の理科の授業では「醤油に電流が流れるのはなぜか」という課題に対して、教師が醤油の成分表を元に複数の物質を用意し、その中から、生徒が選んだ物質について実験を行い、その結果とグループ及びクラス全体での協議から考察し、課題に対する答えを導いていました。

今年度は「教科及び題材のねらいに迫る生徒選択」「個に応じたICT活用」の2点を重点に、教員が互いに授業を参観し、参観した授業について指導者との協議を通して、研究を深めています。



[高松中学校区小中連携研修会]

8月27日に高松中学校区（大海小、高松小、本校）3校で小中連携研修会を実施しました。この日のテーマは「子供に委ねる授業」でした。本校と同様に2小学校も授業の中に「学びタイム」という児童が主体的に学習する場を設けています。教科ごとの実践、課題について共有しました。協議では「意図のある目的を持たせたグルーピング」「『わかる』『説明できる』という授業でのゴールの姿を子供に選択させること」を意識して2学期に取り組むなどの話がありました。

